

〔目的〕前報で、アンゴラおよびアンゴラとウールが混紡された編地のドライクリーニングにおける収縮は、洗淨・乾燥条件と共に編地の水分率の影響が大きく、ドライクリーニングでは家庭用中性洗剤による手洗い（押し洗い）に比べ収縮しやすいことを明らかにした。¹⁾今回は特に、編地の水分率が低い場合の収縮挙動について検討し、アンゴラおよびアンゴラとウールが混紡された製品の適切な洗淨・乾燥方法を考察した。

1) 繊維製品消費学会昭和60年年次大会研究発表要旨集

〔方法〕試布；ラムウール、アンゴラおよびそれぞれの繊維を混紡した毛糸を調製し、編地（20cm×20cm）を作成。ただしアンゴラは長毛（繊維長6.4～7.6cm）と短毛（繊維長2.5～5.1cm）を使用。編地の水分率は5%。試験機；ドライクリーニングテスター（JIS L 1018、溶剤；パークロルエチレン）、乾式回転試験機（タンブラー乾燥機を想定して試作、回転数；70rpm）各種編地は上記処理後、表面状態を観察し、面積収縮率、毛羽脱落率の測定を行った。

〔結果〕①アンゴラおよびアンゴラとウールが混紡された編地はウール編地に比べ、ドライクリーニングによる洗淨や乾式回転処理により収縮が生じ、その収縮の程度はアンゴラの混紡率が高くなる程著しい。②毛羽や編組織の乱れ、毛羽の脱落など編地の表面状態の変化は、アンゴラの混紡率が高くなる程顕著となる。同一混紡率では、長毛を用いた編地が短毛を用いた編地に比べ毛羽の脱落は少ないが、毛羽や編組織の乱れが著しく、これは、長毛を用いた編地で収縮が著しい傾向と一致する。

以上の結果より、アンゴラおよびアンゴラとウールが混紡された製品に対しては、洗淨・乾燥時に毛羽や編組織の乱れ、毛羽の脱落などを促進するような機械力を与えないことが重要である。すなわち、回転洗淨・乾燥は望ましくなく、押し洗い、自然乾燥が適している。